令和４年度

政策提言書

豊橋五策

Positive Challenge

より良い未来の創造に向かって

YEG

令和4年度豊橋商工会議所青年部

政策提言委員会

目次

■ 前書き　・・・・・・・　1 頁

■ ５本の柱　・・・・・・・　2 頁

■ ものづくり　・・・・・・・　3 ～ 5 頁

■ 教育　・・・・・・・　6 ～ 8 頁

■ 環境　・・・・・・・　9 ～ 10 頁

■ 農業　・・・・・・・　11 ～ 12 頁

■ 観光　・・・・・・・　13 ～ 15 頁

■ シビックプライドシンポジウム　・・・・・・・　16 ～ 21 頁

■ 政策提言　・・・・・・・　22 頁

豊橋ＹＥＧに何が出来るのか

令和４年度豊橋商工会議所青年部（豊橋 YEG）政策提言委員会では、本年度会長スローガン「Positive Challenge ～より良い未来の創造に向かって～」のもと、いかにすれば豊橋の未来が活気に溢れ、住みよいまちとして愛され続けていくかをテーマに、本提言に関する協議をスタートしました。
議論を重ねる中で出てきたワードとしては、「(豊橋を）若者が集まるまちにしたい」「豊橋には固有の文化がある」「教育・子育てをするのに素晴らしいポテンシャルがある」といったポジティブな意見がある一方、「連携や協働ができていないのではないか？」「若者が集まる場所がない」「中途半端で何もない」などのネガティブな意見も多数出てきました。
その中で我々は、ひとつの共通するキーワードを見つけました。

「豊橋には素晴らしい“場所”や“コト”があるのに、人にその素晴らしさを伝えられない」

日本経済新聞社と日経 BP「日経 xwoman（クロスウーマン)」による「共働き子育てしやすい街ランキング２０２２」総合編で豊橋市は３位に選ばれました。昨年の１４位から大躍進。中京圏の自治体では唯一、上位５位以内にランクインしています。豊橋市を住みよく感じている人は実際多くいる筈です。しかし、他地域の方々に対してまちのどういった点が素晴らしいと感じるかを具体的に伝えられず、答えられない人も同じように多くいるのではないか…。協議の中で我々はその様な仮説を立てたのです。
分かりやすい資料があります。豊橋市が毎年おこなう『豊橋市に対する愛着度・自慢度調査』の結果です。図１“愛着度調査”では、どの年代をとっても７０％以上が「愛着がある」と答えたのに対し、図２の“自慢度調査”においては３０代、４０代の層で顕著に自慢度が低くなっていることが分かります。さらに言えば「とても自慢できる」の指標では２０代から５０代の割合が１０％を切っている結果となっています。まさしく、自慢度が低い世代へ該当する我々委員会メンバーも、このまちに対するそれぞれの自慢度について議論を深めていきました。

図１

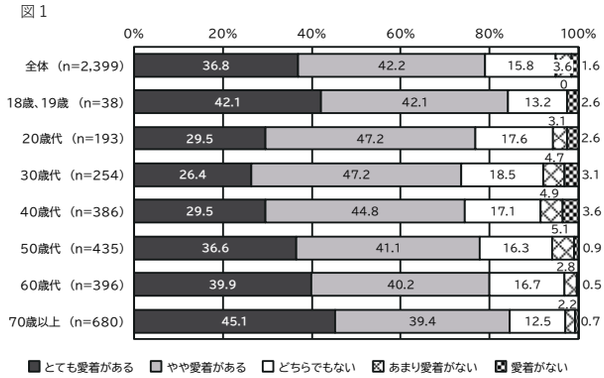
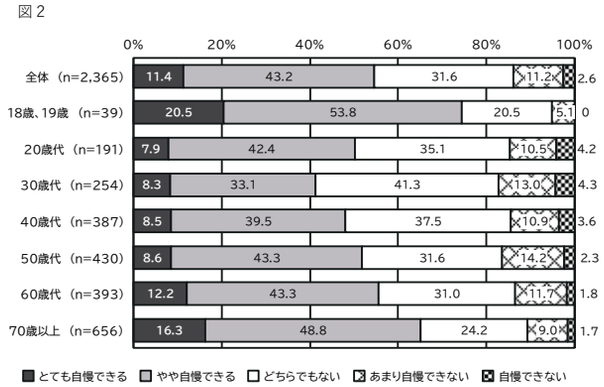


図２



その際、『ワールドカフェ（ブレーンストーミングの一種)』という会議手法を用いて、先ずはテーマを「豊橋の自慢できるところ」に絞り込み、豊橋の良いところ、他所へお勧めしたいところ、ここにしかないもの等明確化していく事で、どうすれば自慢度が高まっていくかを考えました。

（写真－１）ワールドカフェの風景

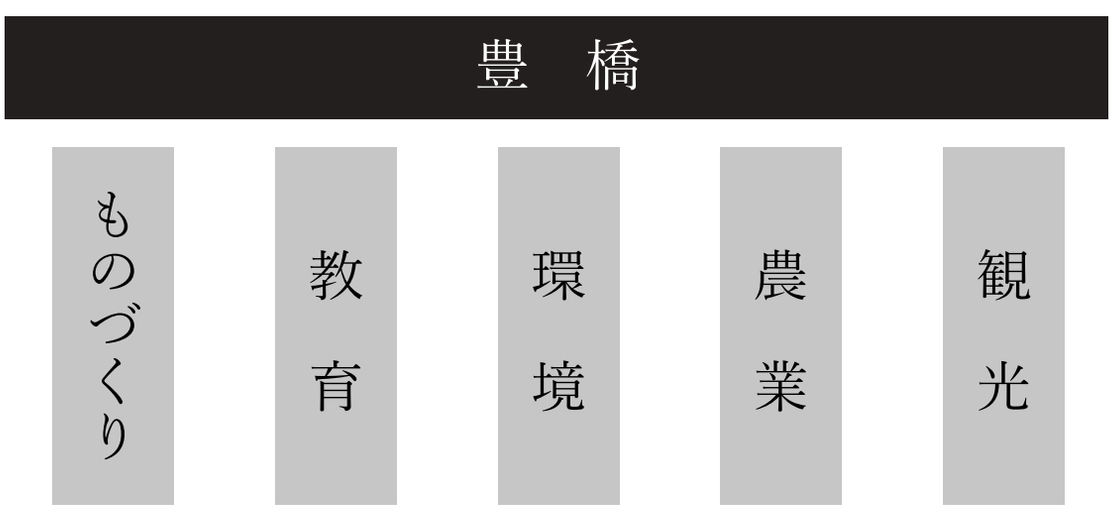
【議論の中で湧き上がったワード】

■ 学校教育（イマージョン教育）
■ 農業
■ 吉田城
■ 豊橋動物園
■ ５３０
■ 造形パラダイス
■ 三遠ネオフェニックス
■ 工業のまち　etc.

（写真－２）ワールドカフェ記入用紙

中には初めて聞く言葉もあれば、「豊橋と云えば」という内容で再認識し合えるものもありました。
面白い点として皆で共感できたのは、豊橋市民が当たり前に感じているものほど、他地域の方から見れば特別に映っている可能性があるということです。
そこで、我々は上記で抽出したワードを骨組みに、豊橋の“誇り”とすべき５本の柱を定め、それらについて更に議論を深めていくことにしました。

豊橋市民が“誇り”を持つべき５本の柱

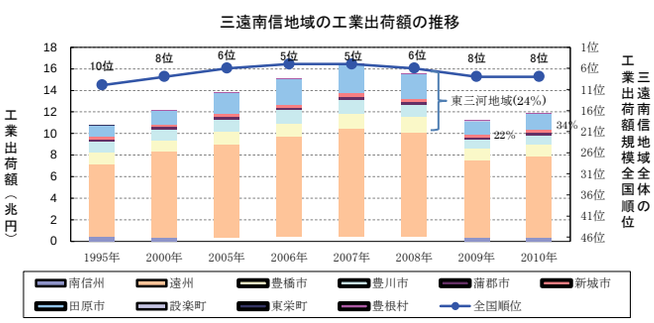


ものづくり

豊橋には優れた技術、技能、そして人材が集まり、国内製造業の拠点として「ものづくり」の歴史があります。今までは勿論、「ものづくり」はこのまちにも、日本にとっても今後更に重要な役割を担います。先人から受け継ぎ、育んできた「ものづくり」に対する熱い思いを市民の“誇り”として、常に新たな技術、技能の発展を追求し、次代を担う若者や子供たちにしっかりと引き継いでいくことが大切です。

東三河地域の工業

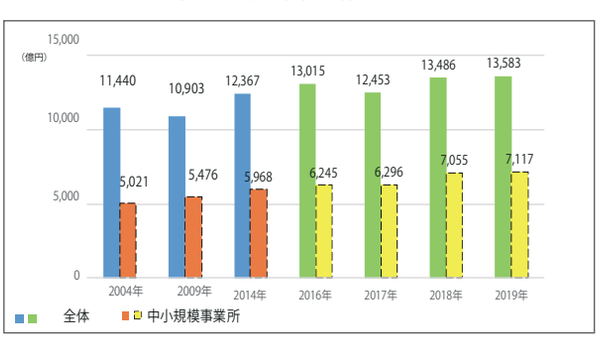
製造業は、東三河地域経済を牽引している重要な産業です。市町村別にみると、田原市（約 1.5 兆円）が最も多く、次いで豊橋市 (約 1.1 兆円)、豊川市 (約 0.8 兆円）となっています。三遠南信地域全体の工業出荷額は約 11.8 兆円 (対全国シェア 4.1%) であり、全国 8 位の茨城県を上回っている。また三遠南信地域における東三河地域のシェアは 34%（2010 年）であり、前年よりも 10 ポイント以上上昇しています。



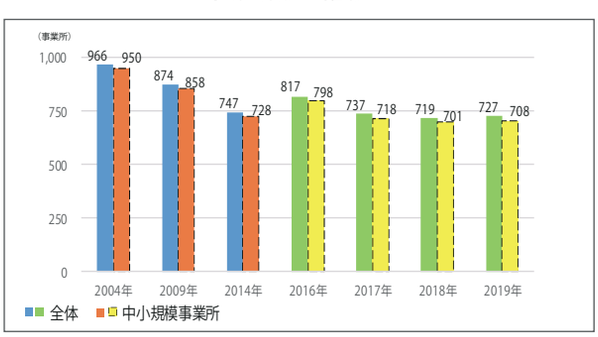
出典　：工業統計表（経済産業省）を利用して作成
遠州　：浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、牧之原市、森町
南信州：飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

製造品出荷額等は、景気の影響による年ごとの変動はあるものの、増加傾向にあります。事業所数は主に中小規模事業所で減少傾向が続いており、事業の承継が課題となっています。
一方で、製造品出荷額等は増加していることから、事業所及び従業員あたりの生産性は高まっているものと推測できます。また、2020（令和 2 ）年度には本市等が整備した産業用地が完売し、新たな産業集積拠点をつくるため、三弥地区及び東細谷地区において産業用地の整備を進めています。

製造品出荷額の推移



事業所数の推移



資料/2004 年～2014 年、2017 年～2019 年：工業統計
2016 年：経済センサス

施設

１．メイカーズ・ラボとよはし

最新のデジタル工作機械を集め、これらを活用した「ものづくりの場」を提供しています。ものづくりに興味があっても踏み出せなかった方々を、最新の技術で後押しし、地域のみなさんから、ユニークで斬新なものづくりへの挑戦者が生まれてくることを期待するもの。

２．豊橋技術科学大学

学部･大学院一貫教育により、優れた技術開発能力を備え、産業を牽引する高度な技術者、さらに、広い視野と柔軟な思考力、豊かな学識を備え、グローバル時代を切り拓く研究開発能力を有する先導的な人材を育てています。

豊橋技術科学大学 ロボコン同好会

NHK 学生ロボコンとは、NHK（日本放送協会)、NHK エンタープライズが主催するロボットコンテストの一つで 2015 年以前は NHK 大学ロボコンと称されていました。
現在、ABU ロボコンの日本代表選考会を兼ねており、毎年 6 月に大田区総合体育館や片柳アリーナで開催されています。豊橋技術科学大学 ロボコン同好会は 2022 年現在、最多優勝回数を誇るロボコン名門校として知られています。

認証制度 / 顕彰制度

１．とよはしの匠

技術と技能の融合により、新しい産業を生みだし、地域産業を活性化するために制定されたもので、市内の事業所に勤務し､又は自ら事業を営む方の中から卓越した技能者を顕彰するもの。これにより、技能者やその職業についての重要性を広く社会に知っていただくとともに、その仕事に携わる方の励みとし、その優秀な技を次の世代に伝え、より多くの優れた人材を育てていくことを目的としています。

２．東三河ものづくり大賞

豊橋商工会議所管内地区およびその周辺において、ものづくり分野における優秀な会員企業や団体を顕彰し、地域産業の活性化、新産業の創造に寄与することを目的とした顕彰制度。

とよはしの匠･東三河ものづくり大賞の風景

イベント

１．東三河ものづくり博

家族みんなで『“世界” で活躍する技術』や『“最新” 技術』を楽しめる博覧会。次の世代に東三河の「ものづくり」を伝えるため、小中高生に向けた展示やイベントも数多く展開し、東三河の専門高校や理工系大学のものづくりも紹介。

ものづくり博

２.高等学校エコカーレース総合大会

与えられた時間の中で決められたエネルギー量を使い、市内の自動車学校に設置された 500ｍの周回コースを何周できるか走行距離（エネルギーマネジメント技術）を競うもの。
種目は車両に支給品のエコハイモーターを使用する「エコハイクラスＡ」、市販品のブラシ付きモーターを使用する「エコハイクラスＢ」、使用モーターは自由な「オープンクラス」の３種類があります。

エコカーコンテストの風景

豊橋愛を育む「ものづくりのまち」宣言

我々は、これまで先人たちが培い築き上げた優れた技術や文化を貴重な財産として再認識し、熱い想いを引き継ぎながらこの風土守り、更なる発展を目指して進みます。
豊橋市は「ものづくりのまち」として進むことをここに宣言します。

教　育

豊橋には保育コンシェルジュが入園に至るまでのサポートをおこなう市の継続的な支援窓口もあり、毎年度当初の待機児童数はゼロです。安心して子どもを預けられる充実した保育環境もこのまちの魅力のひとつです。公立小学校では日本初となる「イマージョン教育」に取り組むなど、教育分野への評価が高い地域でもあります。その様な中でこの度我々は“文化”と“スポーツ”教育について着目しました。

文化教育

豊橋市には２０２２年度で延べ６５回を数える『こども造形パラダイス（以下『造パラ』）』があります。『造パラ』は戦後の復興記念として商工会議所の提案により始まったもので、１９５８年の豊橋まつりからスタート。市内小中学校の図工、美術研究部の活動が中心となり運営されてきました。

あまり知られていない『造パラ』４つのポイント

１．実は、６５年も続いている

現在では３世代にわたり、多くの市民がその活動を経験してきた美術教育。

２．実は、豊橋にしかありません

義務教育の一環として勘違いされがちですが、日本全国で『造パラ』を開催しているのはここ豊橋だけ。

３．実は、国際美術教育会議（INSEA）において何度も発表されている

１９５８年のカナダ、１９５９年のフィリピン、１９６３年のニューヨーク、そして１９６５年の東京。国際的会議の場で４度の発表を行い、「世界に類を見ない画期的な教育活動」「美術教育の奇跡」として非常に高い評価を受けている。

４．実は、第１５回豊橋文化奨励賞を受賞している

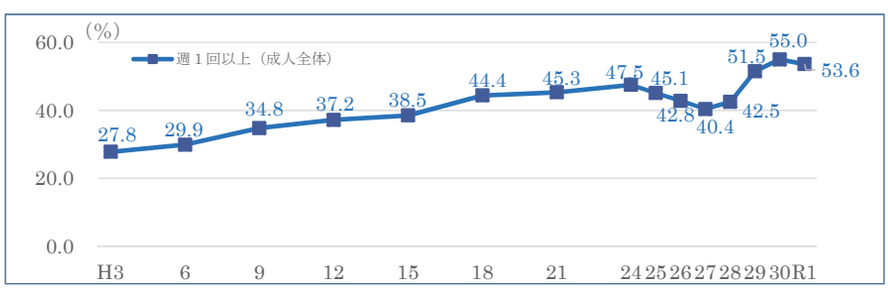
１９６４年、その活動が文化振興に資するものとして文化奨励賞を与えられている。この賞は年に一度発表され個人や団体に授与されるもので、豊橋文化振興財団によって運営される。第１４回までの受賞者には丸山薫、中村正義、郷土史研究の豊田珍比古（うずひこ）ら、そうそうたる顔ぶれがならぶ。

スポーツ教育

まちづくりを“スポーツ”の観点からイメージした時、豊橋市にはプロスポーツチームが存在する「当たり前」に気が付きました。ここ豊橋は、三遠ネオフェニックス（ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ）が拠点を置く都市なのです。

数多の海外・国内事例を取ってみても、スポーツ文化がまちに根付き地域民一体となって盛り上がりを見せるケース、またそれにより栄を得ている都市は少なくありません。では、このまちにその可能性はないのでしょうか。我々は先ほどの「当たり前」と「スポーツ振興」を交え、バスケットボールへフォーカスを当て考えてみました。豊橋市がおこなった“スポーツを取り巻く社会潮流及び基本認識”の調査では、スポーツへの関心の高まりに並びニーズの多様化、高度化も見て取れます。

≪成人のスポーツ実施率の推移≫

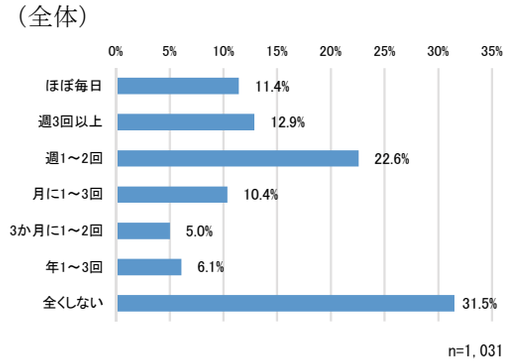


出典／スポーツ庁 「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

健康意識が高まる中、運動不足に関する意識も高まっています。スポーツへの関心が高いようにも思える豊橋市市民ですが、スポーツ実施率については週一回以上スポーツをする割合は４６.９％と半分以下です。更には、スポーツを全くしない人の割合が３１.５％とアンケート結果では最多となります。また、よくするスポーツ、新たにチャレンジしたいスポーツにおけるアンケートでは共にウォーキングがダントツで一位。バスケットボールはよくするスポーツとしては０.５％、新たにチャレンジしたいスポーツでは、１％と非常に低い回答結果でした。地元にプロスポーツチームを有するまちとしては、非常に低い浸透率と言わざるを得ません。地域のスポーツ振興には、様々な要素やカタチがあります。では豊橋においてはこれをどの様に推し進めていくべきなのでしょうか。

≪ スポーツ実施率（全体・成人以上）≫

（全体）

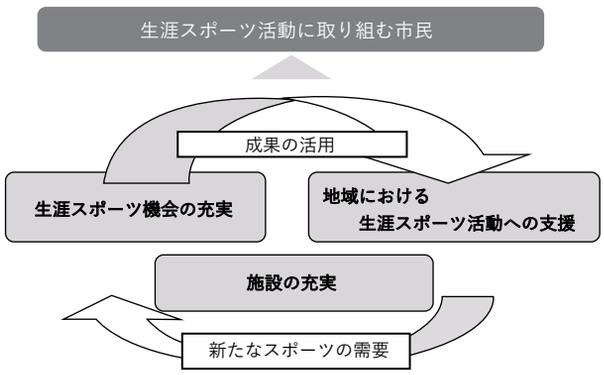


≪よくするスポーツ・新たにチャレンジしたいスポーツ≫

「生涯スポーツ」の推進

生涯スポーツとは、誰もがそれぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも主体的にスポーツに親しむことを指します。つまり、自らがおこなうばかりでなく、観戦や応援を通じて関わりを持つのもひとつです。多様化するニーズや各々の志向は縛られるべきではありません。しかし、その様な中であえて地域一体となって盛り上がることのできる、まちの象徴スポーツを築かんとする時、バスケットボールをそこに掲げられる都市は多くない筈です。豊橋市における「生涯スポーツ」の推進は、既に市がイメージする“生涯学習相関図”をスポーツに置き換える事で実現できるのではないかと考えます。

■ これからの「生涯スポーツの推進」のイメージ



豊橋愛を育む「教育のまち」宣言

我々は、文武両道の精神の下に次代へとつなぐ先駆的な教育活動を試行しながら、まちの未来を想い、考え行動できる智徳を備えた人財を大切に育みます。
豊橋市は「教育のまち」として進むことをここに宣言します。

環境

豊橋市は 530 運動発祥の地であり、環境問題・環境活動に取り組んできた実績のある地域です。子供の頃から「ごみ」についての教育をどこかで受けている。そんな、豊橋が抱える環境の現在と未来について考えてみました。

530 運動

豊橋市では昭和 50 年に豊橋市自然歩道推進協議会の役員で豊橋山岳会会長の夏目久男氏が「自分のゴミは自分で持ちかえりましょう」の合言葉で「530 運動」の推進を豊橋市に提唱し、豊橋市も強く賛同した結果、市内 43 団体の結束のもと官民一体の 530 運動推進連絡会が結成されました。「落ちているごみを拾う」という、いつでも、誰でも、どこでも取り組める気軽さと、「ゴミゼロ」のネーミングのユニークさにより、活動開始後、市内市外関係なく多くの自治体や団体等が視察に訪れ、それぞれが取り組んでいったことにより、市外、県外、全国へと広がりました。
以来、530 実践活動として 5 月 30 日（ゴミゼロ）の日と 11 月の豊橋市民の日を中心に全市一斉の 530 実践活動 (清掃活動) に取り組み、530 運動の一環として、清掃活動以外にも幼児環境教育やごみを減らすキャンペーン活動、環境についてのイベントの開催などに取り組んでいる。530 運動環境協議会は、活動令和 3 年度 3 月末時点で 149 団体、403 個人の会員で構成されています。

啓発活動

毎年春と秋の 2 回行っている全市一斉の 530 運動には、市民・事業者併せて約 16 万人が参加しています。豊橋市は人口約 37 万人の都市であるため、約 4 割の人々が、また、438 組ある町内会では、約 85％の 370 組の町内会が取り組んでいます。多くの市民等が 530 運動に取り組むことにより、「ゴミを捨てない心」が育まれ、また、道路等にポイ捨てされているごみや目隠しになる雑草がなくなり、ごみが捨てられにくい環境づくりにつながっています。また、市内幼稚園・保育園を対象に実施している訪問指導は、平成 29 年度で 14 年継続して実施しており、当初は 40 園程度だった参加園数も現在では約 60 園に増加しています。この取り組みは、多くの園児たちが「ごみ」に対する興味を持つきっかけとなっています。

受賞歴

：昭和 53 年度　美しい環境づくりで県知事表彰を受賞
：昭和 54 年度　環境庁長官より感謝状の贈呈
：昭和 56 年度　豊橋文化協会より豊橋文化奨励賞を受賞
：平成 9 年度　地方自治法施行 50 周年記念の自治大臣賞を受賞
：平成 21 年度　東愛知新聞社制定の特別社会賞を受賞
：平成 29 年度　2018 愛知環境賞（金賞）を受賞

ゼロカーボンシティ宣言

令和３年１１月に「５３０のまち環境フェスタ」にて浅井市長がゼロカーボンシティ宣言を行い、２０１５年度を基準年として温室効果ガス排出量の従来目標を下記の通り引上げました。

短期目標 2025 年度 18%→24%削減
中期目標 2030 年度 26%→46%削減
長期目標 2050 年度 80%→カーボンニュートラル達成

計画の推進は、新設のゼロカーボンシティ推進課を中心に行われています。

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

令和４年４月『プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律』により、豊橋市としても家庭から排出されるプラスチック使用製品廃棄物の分別収集、再商品化その他の国の施策に準じてプラスチックに係る資源循環の促進等に必要な措置を講じるよう努める事となりました。同法律により市内の企業においても、下記への取り組みが求められるようになりました。

① プラスチック製品の配布抑制
② プラスチックから異素材への代替
③ プラスチック使用量を減らすための製品設計
④ プラスチックごみの自主回収・再資源化、排出抑制

現在の530運動への関わり方

５３０運動へは、平成３１年度まで約１７万人の参加者がいました。しかし、コロナ渦の影響もあり、その活動は制限され参加人数も減少してしまいました。令和３年度の段階で１１万５千人まで復調しましたが、以前のようには戻っておりません。将来にこの素晴らしい活動を繋ぎ、もっと内外に示していく為にも、更なる啓発活動が必要ではないでしょうか。

豊橋愛を育む「環境のまち」宣言

我々は、歴史ある環境活動の継続に力を注ぐと共に、常に新たな環境の在り方についても意識を広げ、クリーンな未来を子どもたちへ受け渡す責任を果たすべく歩んでいきます。
豊橋市は「環境のまち」として進むことをここに宣言します。

農業

豊橋は豊川用水の豊かな水と温暖な気候に恵まれ、農業が盛んに行われてきており、露地野菜、果樹、園芸作物、稲作など多種多様な作物が栽培されるほか、養鶉を始め、養豚、養鶏などの畜産も盛んであり、全国トップクラスの農業産出額を誇る産地です。全国生産シェア No.1 である鶉のたまごや大葉、次郎柿、スナップエンドウ、エディブルフラワーだけでなく、キャベツやトマト等、豊橋は農業大国としての「誇れる」実績があります。

≪②2019（令和元）年豊橋市詳細品目別農業産出額（推計）≫

区分		産出額計	主要な品目										
			米	野菜				果実		花き	畜産		
					キャベツ	トマト	いちご		柿			豚	その他畜産物
産出額(千万円)		3,821	185	1,989	622	358	101	261	144	181	1,147	454	184
順位	県内	2	4	2	2	2	3	2	1	5	2	2	1
	全国	13	268	5	3	6	38	71	6	19	53	26	7

※主要な品目は抜粋

資料/市町村別農業産出額(推計)

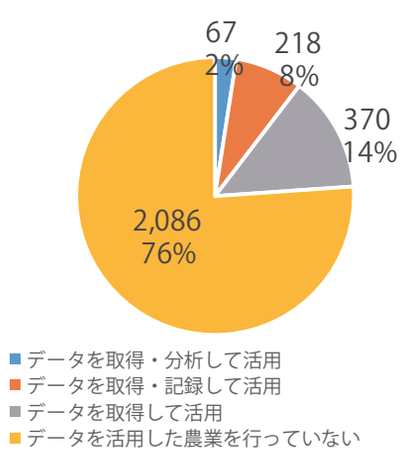
現状課題

豊橋市が誇る「農業」に関して、近年では経営耕地面積は、農地転用や農業従事者の高齢化による離農、後継者不足や耕作放棄地の拡大などにより減少傾向にあります。販売農家戸数も同様に減少傾向が続いていますが、１戸あたりの農業産出額は増加傾向にあり、経営の効率化や大規模化による生産性の向上に向けた動きも見られます。データを活用した農業を行っている農業者は全体の２割程度となっています。

図１：農業関連指標の推移

	平成 12 年	令和 2 年	
農家人口	31,735	10,087	(人)
総農家数	6,358	4,234	(戸)
経営耕地面積	6,454	4,163	(ha)

図２：2020 年データを活用した農業を行っている経営体数



野菜嫌いな愛知県

カゴメ株式会社が“野菜摂取量の実態”と“野菜摂取を阻害している要因”を明らかにするため、全国の２０～６９歳の男女計９９６４人に対し調査を実施。更にそのランキングをベースとして、各都道府県の同年代男女計７１００人に対し「野菜不足」に関する意識調査を行いました。その結果、なんと愛知県民の野菜摂取量は全国でワースト１位。トップの長野県との１日当たりの摂取量の差は４０g/１人。全国屈指の農業産出額を誇る豊橋市は野菜嫌いな県に属しています。

＜参照＞https://www.kagome.co.jp/syokuiku/knowledge/research/research06/

新たな取り組み

HI AGRI MEETUP の創設

スマート農業やアグリテックを農業従事者と結びつける試み。農業領域におけるオープンイノベーションの講義やワークショップ、実際のスタートアップとの交流機会（マッチング）を通じて、当地域の農業現場の課題解決を目指すものです。

ソーラーシェアリング（営農型発電）の取組

ソーラーシェアリングとは、太陽光パネルを農地に設置し、農業と共に発電を行うものです。通常、太陽光発電の設置は農地にはできません。農業を目的とすることで、農地転用せずに広大な農地で太陽光発電を行うことも可能です。ソーラーシェアリングを行えば、その敷地を無駄なく使うことが出来ます。

食と農業

あぐりパーク食彩村、まちなかマルシェや JA 豊橋等で産直ファーマーズマーケットが開催される等、農家と飲食店事業者とのマッチング会など地産地消の取り組みが広がっています。他にも、豊橋市による６次産業化支援事業も行われています。

豊橋愛を育む「農業のまち」宣言

我々は、自らが暮らす地の農産物に対し更なる関心と誇りを持ち、またそれを進んで食し、その豊かさと素晴らしさを様々なアイディアをもって広く伝播していきます。
豊橋市は「農業のまち」として進むことをここに宣言します。

観　光

このまちに在る限られた観光資源の中でも、市民にとって最も身近な存在と云えるのが「豊橋市総合動植物公園」と「吉田城」ではないでしょうか。豊橋では当たり前の存在といっても過言ではない両スポットですが、そのポテンシャルたるや正に再認識が促されるべきものであり、改めてその存在を市民一体となって広く PR していくべきであると考えます。これらコンテンツを新しい視点から見つめ直すことで、豊橋の観光地としての可能性は広がっていく筈です。

豊橋市総合動植物公園

愛称は『のんほいパーク』。「のん」（ですね）と「ほい」（やあ、おい）は東三河地方の方言。豊橋在住の方なら、学生時代での遠足・写生大会、デートや家族でのお出かけに一度は訪れたことがあるのではないでしょうか。実は日本で唯一、国公立として認められている動物園、植物園、遊園地、自然史博物館が一体化した施設なのです。

2021 年 7 月にはインドの動物園から贈られたアジアゾウ 3 頭を公開。飼育数は 6 頭で国内有数の規模になった。放飼場も改装して群れ飼育への可能性と展示方法の幅が広がった。さらに夜間営業の「ナイトズー」など季節ごとのイベントも毎年趣向を変え、来園者を飽きさせない工夫に知恵を絞っているという。

参照：東愛知新聞

のんほいパーク来園者数の推移

年　度	来園者数	主な出来事
1992 年	99 万 4872 人	総合動植物公園が開園
96 年	94 万 1944 人	植物園がオープン
2006 年	92 万 6251 人	市制が 100 周年事業でマンモス展示
10 年	67 万 3442 人	100 万人プロジェクト (～ 20 年度)
17 年	83 万 8322 人	
18 年	85 万 8357 人	自然史博物館に 3 D シアター導入
19 年	96 万 2840 人	ゾウ放飼場を改装オープン
20 年	80 万 4922 人	新型コロナ渦に伴う休園 (41 日間)
21 年	90 万人 (19 日)	アジアゾウ 3 頭導入で群れ飼育

日本初の行動展示

今では他の動物園で行われているホッキョクグマの飛び込みも 1995 年に全国で最初に始めました。ライオンを下方向から見られる通路があるのは国内唯一です。1970 年の子供自然公園時代に「無柵放養式」と呼ばれる檻を使わずに堀などで隔離して自然な形で見られるよう展示をおこなう手法を採用しました。こちらも当時では珍しく、最先端の手法とされていました。

豊橋絶滅動物園

ゴリラやチンパンジー、ライオンにキリン…など、動物園の人気動物は、ほとんどが絶滅危惧種。それはこのままの状態が続くと絶滅してしまうということです。今の子供たちはこれから 30 年、動物たちの絶滅や自然が消失していくさまを目にして大人になる。豊橋市という地方都市を舞台とした子どもたちの未来を真剣に考える場づくりを提供し、地球のことを知る機会を得る事ができます。

参照：読み聞かせ写真集「豊橋絶滅動物園」

吉田城（豊橋公園）

日本城郭協会制定の「続日本１００名城」の一つに選ばれた。吉田城は、永正 2 年（1505 年）豊川の一色城主　牧野古白（まきのこはく）　によって築城された今橋城に始まります。永禄 8 年（1565 年）に吉田城を攻め落とすと、徳川四天王・徳川十六神将ともに筆頭とされ、酒井忠次が城主として入城しています。吉田城は徳川 3 代将軍家光までが江戸から京都に向かう途中で宿泊した本丸御殿があり、幕府にとっては重要なお城だったようです。明治維新後、1873 年に廃城令で取り壊されました。現在の吉田城は太平洋戦争後に再建されたお城です。

吉田城の石垣刻印

豊橋公園の西奥に吉田城の本丸周辺には石垣が残っていて、刻印が入った石がいくつか発見されています。刻印は築城にかかわった武士や石工が自分の仕事を誇示するため、また、盗難を予防するなど様々な理由があったようです。

豊橋公園

美術博物館、三の丸会館と文化施設に富む街のオアシス。面積は 21.6 ヘクタールあり、公園全体と隣接する市役所の敷地が旧吉田城址にあたります。明治以後は旧日本軍の部隊もおかれた事もあり、一部その名残が残る等、様々な面で楽しむ事ができます。緑のスポットを抜けた先に吉田城はあり、吉田城は豊川が大きく蛇行した淵と支流の朝倉川が合流する場所に位置し、豊川とは約十メートルの段丘崖で接している事から 4 階の四方の窓からは周囲の景観を眺めることが出来ます。

豊橋愛を育む「観光のまち」宣言

　我々は、まちに在る限られた資源と特性をよく理解し、その魅力を最大化して多方面へアピール出来るよう考えを持ち寄り、観光地としての新たな価値を創出していきます。
豊橋市は「観光のまち」として進むことをここに宣言します。

令和４年度 豊橋商工会議所青年部

TOYOHASHI CIVIC PRIDE SYMPOSIUM

とよはしシビックプライドシンポジウム

＜開催テーマ＞

新アリーナを機運としたポジティブなまちづくりビジョン

新たなまちのシンボルが育む「豊橋・愛」

アリーナを起源とした新たな「まちづくり」

さあ、今こそ「協働」して新たな未来を切り開こう！

趣　旨

新たなまちのシンボルとなり得る「新アリーナ」と「シビックプライド」を掛け合わせた企画テーマで豊橋市民を対象としたシンポジウムを開催。本事業は、広義にわたる新アリーナの構想を先ずは地域住民にわかり易く伝えられる場を設け、他地域での事例等も踏まえながら情報を共有することで新アリーナの可能性について知ってもらい、多くの市民に更なる愛着をもたらすことを目的としました。催しの中では、地元にプロスポーツチームがあることの素晴らしさを伝える点や、その他新アリーナができることでもたらされる豊橋の明るい未来をより具体的にイメージしてもらえるよう考慮し企画。このような取り組みを含め、新アリーナ建設の予定されるここ豊橋市が、東三河全域をはじめ全国からも注目され、これを機運として地域に人を呼び込むことが出来ないかを模索すると共に、活気溢れるまちとなっていくよう官民での連携を図りつつ実施したものです。

概　要

事業名：ＴＯＹＯＨＡＳＨＩ　ＣＩＶＩＣＰＲＩＤＥ　ＳＹＭＰＯＳＩＵＭ

テーマ：新アリーナを機運としたポジティブなまちづくりビジョン

日 時：令和５年２月５日（１４時～１６時１５分　１３：３０受付）

会 場：豊橋市公会堂（豊橋市八町通２-２２）

プログラム：

■ オープニングパフォーマンス　　つつじが丘ジュニアマーチングバンド

■ 第一部 キーノートスピーチ

（公社）ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ チェアマン 島田 慎二氏

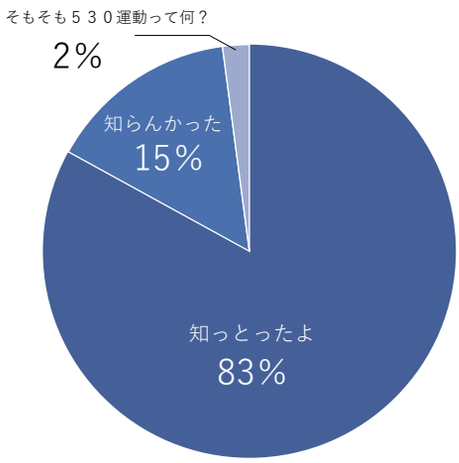
■ ハーフタイムパフォーマンス　　Fire Girls ジュニアチアリーダーズ

■ 第二部 パネルディスカッション

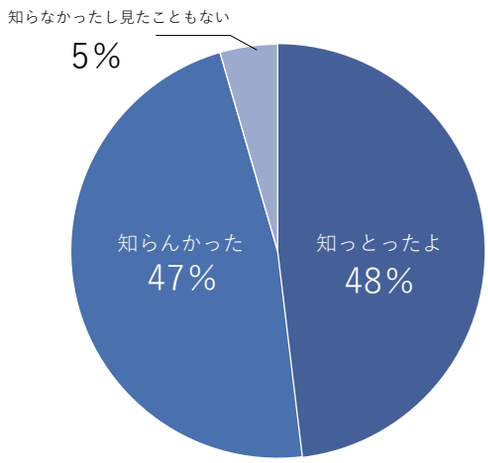
三遠ネオフェニックス（株）フェニックス　　代表取締役 牛尾 信介 氏
愛知大学 地域政策学部　　教授 元 晶煜 氏
（公財）豊橋市スポーツ協会　　理事長 佐藤 元英 氏

■ エンディングパフォーマンス　　藤ノ花女子高等学校 マーチングバンド部 RED PEPPERS

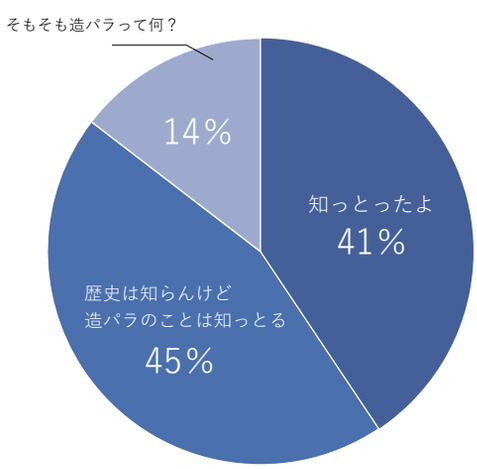
市民アンケート



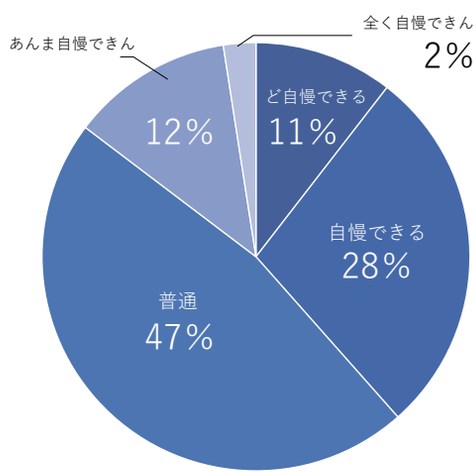
「530 運動」発祥の地が豊橋市ってことを知っていましたか？



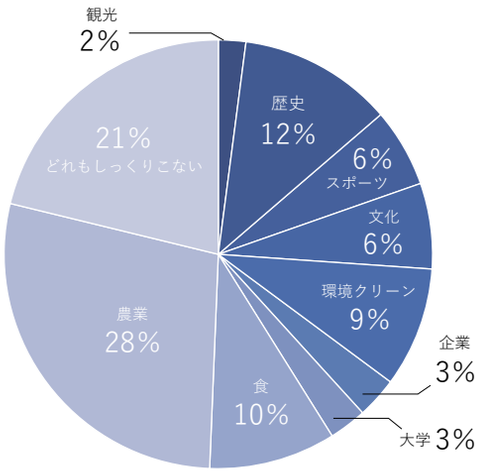
豊橋動物園が全国で初めてホッキョクグマの行動展示を行ったということを知っていましたか？



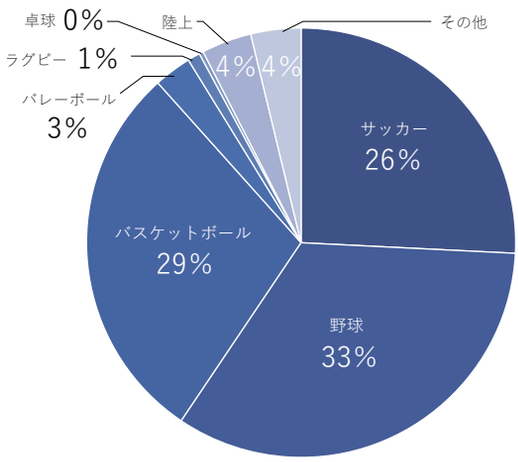
豊橋独自の教育行事といえる「造形パラダイス」には 60 年もの歴史があることを知っていましたか？



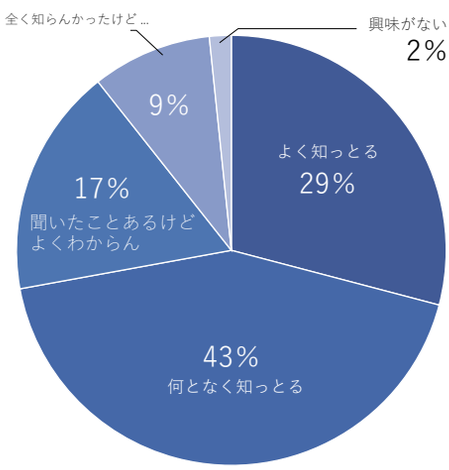
あなたの中で「豊橋」の自慢度ってどれくらい？



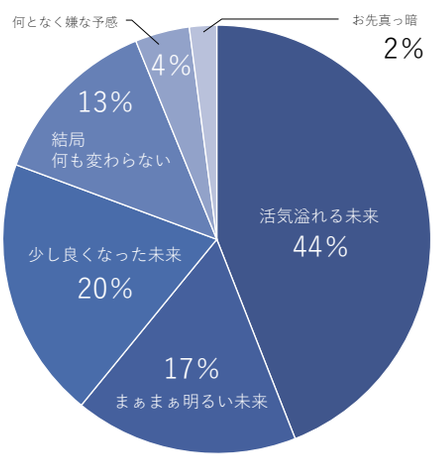
あえて言うなら、豊橋は～のまち！（複数選択可）



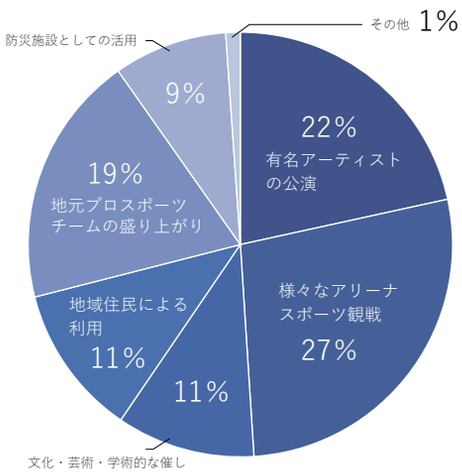
スポーツと聞いて真っ先に思い浮かべる競技は？



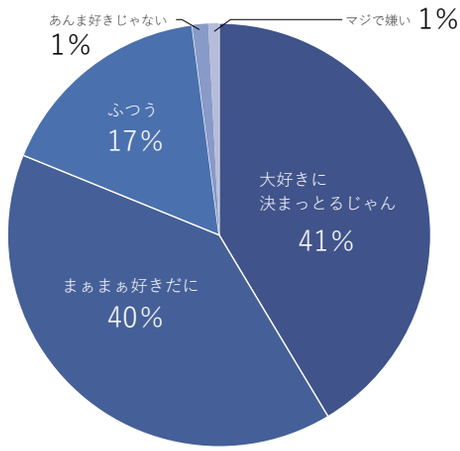
新アリーナの建設計画についてどれくらい
知っていますか？



このまちに新アリーナができたとして、どんな未来が
想像できますか？



このまちに新アリーナができたとして、どのような用途に期待しますか？



あなたは豊橋のこと好きですか？

「シビックプライド」「新アリーナ」「シンポジウム」に関する任意記入欄より（一部ご紹介）

・本日の内容はとても分かり易く、バスケというスポーツのこれからの可能性を強く感じました。　また牛尾さんの熱量も強く伝わり、フェニックスの改革が豊橋の自慢にもなります。

・新アリーナに関してはとても楽しみです。　いろいろな意見があるのも聞いていますが、災害時の対策となるような施設と、夢のアリーナの共存が出来れば素晴らしいと思う。　個人的には交通の問題が一番気になる。

・愛知大学教授の方のお話から、新アリーナへの期待が深まりました。　新アリーナが、豊橋の新しい場となるように楽しみにしています。

・今回とは論点がずれているかもしれないがシビックプライドをうったえるならば若者を対象にするのが効果的に感じる。時間がゆるすならば学校などでもこのような充実したディスカッションにふれる機会があるとありがたい。

・スポーツを核とするまちづくりはたのしそうだが、全員にささるとは限らない。新アリーナ建設に至っては視野をせばめず様々な方法で活用していってもらいたいと思った。

・アリーナ利用の駐車場が足りないこと、子供の交通事故が増えないか心配。そこの問題を解決してほしいです。

・賛否両論のテーマを扱ったことを高く評価します。誰も関心を持たないテーマを扱って身内で自己満足をしているのではなく、地域にとって真に意味のあるイベントだったと思います。

・名古屋まで行って豆つぶ位に見えるプロ野球よりも、豊橋で選手も近いバスケは良いぞ！と思えるような新アリーナを作って下さい。楽しみにしています。

・立場の違う一人ひとりが自分の立場から豊橋市のことを考えるよいきっかけになると思います。「自分のため」という理由でもよいので、私自身カッコつけずに考えたいと思います。

・ネオフェニックスが自分たちの稼ぎでアリーナをつくればよい話。税金を投入して市民の憩いの場である豊橋公園に立てるのは間違いだと思います。

・豊橋は保守的なまちで新しい事を受け入れないところがあります。でもこれでは豊橋に未来はありません。今回の企画は人々に気付かせる良い機会だったと思います。青年部の皆様に期待しています。素晴らしいシンポジウムでした。

・大きな箱ものではなくもっと普段の普通の生活を大切にして欲しい。すべてが「たられば」の一番うまくいった場合の話ばかり、うまくいかなかった場合誰が責任を取るのか。

・新アリーナを作る事がどのようなメリットとデメリットを生むのか、広報が足らないのではないかと思います。市民側からボトムアップで、結果どのように進むかわからないが議論はつくすべき。

総　括

地域への愛着や誇りを意味する「シビックプライド」。我がまちにこの概念を醸成することを目的として２月５日、豊橋市公会堂で「TOYOHASHI CIVIC PRIDE SYMPOSIUM」を開催しました。同志青年部メンバーを含む、一般参加者など計約５５０人が来場。「新アリーナを機運としたポジティブなまちづくりビジョン」をテーマに、Ｂリーグチェアマン島田慎二氏、フェニックスの牛尾信介代表取締役、愛知大学の元晶煜教授、豊橋市スポーツ協会理事長の佐藤元英氏が登壇しました。トークシーン以外にも、豊橋で活躍する若きパフォーマーたちの華やかな協力により、大盛況のうちにシンポジウムの幕を下ろすことができました。

“豊橋シビックプライド宣言”草案
『宣柱五策』の策定

シビックプライドとは、まちに対する愛着や誇りを意味し、さらには「地域を育くみ、まちの為に行動する」という主体的な態度や行動を指す言葉です。豊橋シビックプライド宣言の草案を策定し、行政へと具申をおこなう意図は、地元住民から見れば当たり前になってしまいがちな豊橋の特性や魅力を表象化することで、知っているようで気付けていないまちの魅力に論を俟たず触れる機会を創り出す点にあります。多くの魅力に気付くことが出来れば、今にも増してこのまちへの愛着が湧き、ひいては上記で述べた「地域を育くみ、まちの為に行動する」次代を担う人財を育むことへと繋がっていく好循環を生み出します。それは同時に、豊橋と多様な関わりを持つ人々への伝播をもって、対外に魅力を発信できる象徴的な規範にもなり得ます。本草案では、豊橋にまつわる「ものづくり」「教育」「環境」「農業」「観光」という誇るべき５つの項を同宣言の柱に据え紹介いたしました。新たな発見を促すものから再認識と深堀を巧むものまで、その構成と角度は様々に、何れもが豊橋シビックプライドそのものと言えます。そしてこの草案を、坂本龍馬が起草させた新国家構想「船中八策」になぞらえ、豊橋シビックプライド宣言の柱とすべき五本の策「宣柱五策」と銘打ち取りまとめ、提言書として建議します。船中八策が五箇条の御誓文となって明治政府の基本方針に掲げられ、やがて時を経ながら日本の民主主義の普遍的な理念として根付いていったように、本草案の提起が豊橋創生の一石となることをイメージしつつこれを策定します。

豊橋の未来が活気に溢れ、住みよいまちとして愛され続けていくには、今この地に暮らす皆々が先ず、まちに対して更なる愛着や誇りを持つことが重要です。そして、地域に訪れる機会と湧き起こる課題を共に展望しながら、一人ひとりがそれぞれの立場で出来ることに取り組む参画の意識が欠かせません。常にまちの将来とその可能性を第一に考え市民が協働できれば、豊橋の未来はより良く創造され進んでいくに違いない筈です。ここで述べる協働とは、異なる者同士が共通の社会目的を共有し、それぞれの資源（人的あるいは物的資源）や特性を持ち寄り、対等な立場で協力し共に働くことを指します。令和４年度政策提言委員会では、我々の暮らす豊橋市が今後、能動的で市民参画に満ちた理想的なまちづくりを実現していけるよう、上記で述べた内容を表象した『豊橋シビックプライド』というシンボルワードを提唱するとともに、概念とも言える“豊橋愛”の醸成や、マインド形成そのものを重要な政策として位置付け、その啓発と具申手法について協議を重ねて参りました。また、政策企画課との意見交換を経ながら考案した本付帯策が将来、豊橋市の掲げる新たな規範（案：豊橋シビックプライド宣言）として取り成されることを期待すると共に、同宣言の制定へつなぐ為の五箇条からなる骨子草案『宣柱五策』をここに取りまとめ、提言書として提出いたします。

宣柱五策

第一義

優れた技術、熱い想いを引き継ぐ「ものづくりのまち」

第二義

文武両道の精神と知徳を育む「教育のまち」

第三義

クリーンな未来を子どもたちへと受け渡す「環境のまち」

第四義

地の産物の豊かさを知り、誇りを持つ「農業のまち」

第五義

限られた資源と特性の中から新たな価値を創出する「観光のまち」

令和４年度

豊橋商工会議所青年部

会　長	林　啓介
副会長	藤倉康晴
委員長	柴　京介
副委員長	奥田至穂
副委員長	金田昌之
副委員長	佐々木脩介

伊沢　健	糸永洋介	稲吉　勝
岩城弘和	神谷政幸	河合伸行
金原圭吾	来本健作	小西充洋
杉村　耕	髙橋幸男	髙林栄二
千明　宏	橋本啓志	藤原浩巳
宮下滉平	安井邦洋	山本祐一郎

YEG